

地域振興助成

2020 年度採択事業 活動紹介

アートによる地域振興助成

1. イシノマキアートハイスクール

一般社団法人 Reborn-Art Festival

代表者名：松村 豪太

2011年震災当時、小学生だった現在の高校生は、自分たちの成長期を石巻の復興とともに過ごしてきた世代。このプロジェクトでは、アートの持つ批評的視点や多様な表現を実践的に学ぶ機会を高校生の中に創出し、次年度以降の企画へつなげていくことで、次世代の人材育成も目指している。また、石巻で街づくりや芸術活動を行う団体とも連携し、アートによる街づくりを推進していく。

Website : <https://www.reborn-art-fes.jp/>



2. PARADISE AIR

一般社団法人 PAIR

代表者名：森 純平

千葉県松戸駅前に位置する、アーティスト・イン・レジデンス。「一芸一宿のトランジットポイント」を目指し、世界中から訪れるアーティストに滞在場所と制作場所を提供する「ロングステイプログラム」と「ショートステイプログラム」、およびアーティストと地域をつなぎ多様な学びと交流を促す「ラーン・プログラム」の3つのプログラムを軸に、国内外のアーティストの制作活動を支援している。

Website : <http://paradisear.info/>



3. モモモンタージュ・オオツチ

映像ワークショップ

代表者名：木村 悟之

石川県加賀市にある大土町は国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されているが、1世帯の集落消滅の危機にあり、「集落の存続と活性化」が課題となっている。郷土映像資料をアーカイブし、それらの資料を活用したイベントを1年かけて継続的に開催。こうした映像のアーカイブ活動によって、大土町の景観と歴史的背景に関心を寄せる若い世代、国際的なネットワークを繋げ、既存の地域概念に捕らわれない新たなコミュニティを創出していく。

Website : <http://eizo.ws>



4. 北アルプス国際芸術祭 2020

北アルプス国際芸術祭実行委員会

代表者名：牛越 徹

周辺観光地の経由地点として観光客の訪れはあるものの「消滅可能性都市」に挙げられるなど人口流出の課題に直面している大町市。北アルプス国際芸術祭は、大町市の扇状地をつなぐ廻廊から山々を見遙かし、青い天空を水場から、集落から仰ぐ試み。鮮烈で爽やかなアート作品と、水、木、土と高い空が清冽な空気となって私たちを包み込む。本年は皆川明氏をビジュアル・ディレクターに迎え、北アルプスの水と人間の営みを明らかにしていく。

Website : <https://shinano-omachi.jp/>



5. アッセンブリッジ・ナゴヤ 2020

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

代表者名：月東 靖詞

かつて産業貿易と物流で栄えていた名古屋の港まちを舞台に2016年よりスタートした、音楽と現代美術のフェスティバル。音楽とアートを架け橋として、まちと人が出会い、つながりが生まれ、新たな文化が育まれていくことを目指している。港町の特徴を活かし、空き家・空き倉庫がアーティストの制作活動や披露の拠点となることで、コンサートホールや美術館ではなく、いつものまちが会場となり、名古屋の港まちの日常に音楽やアートが溶け込み、創造性溢れる場所を創り出していく。

Website : <http://assembridge.nagoya/>



6. 龍野アートプロジェクト 2020 「木霊 echo」

龍野アートプロジェクト

代表者名：浅井 良昭

「龍野から世界へ」をキーワードとして国際的な発信をはかり、より多くの人々が集う町になることを目指して活動。山や川、動植物に恵まれた豊かな地元の地域力を活用しながら、城下町全体をつかった美術活動や、地元の方々との対話を通じたワークショップ、地域に滞在しながら作品を制作するなどの取り組みを実施している。

Website : <http://tatsuno-art-project.com/>



7. 島・まるごと！美術館計画

高見島プロジェクト

代表者名：内田 晴之

高見島は現在 30 人に満たない集落となり、島内の空き家が倒壊してしまうという危険に瀕している。瀬戸内国際芸術祭の開催に伴う空き家の整備では追い付かない状況のため、高見島全体を一つの美術館としてみたてたプロジェクトを企画。島内の空き家を1つの展示室として整備し、芸術祭のある年だけではなく、年間を通じて高見島を楽しんでもらうことで、様々な人が集まる地域の美術館のような場所を目指していく。

Facebook : <https://www.facebook.com/TakamijimaSetogei/>



8. Good Job!TRAVEL アート・クラフトをめぐる旅

一般財団法人たんぽぽの家

代表者名：播磨 靖夫

近年、障害のある人がアート活動やものづくりをすることで社会参加する機会が増えている。地域の芸術文化、工芸に取り組む人たちとのコラボレーションの事例も各地で見られるようになった。「Good Job!TRAVEL」は、障害のある人のユニークな仕事を新しい文化的資源として捉え、地域の手仕事や新しい観光エリアも織り交ぜながらめぐるツアーを実施。楽しみながら地域での仕事づくりの実践事例を共有・深化させていく機会をつくる。

Website : <https://tanpoponoye.org/>



9. 飛生芸術祭 2020 「僕らは同じ夢をみる」

飛生アートコミュニティ

代表者名：国松 希根太

木造校舎と周囲の森を展覧会場として、多様な表現をお披露目し、たくさんの方々と出会い交流する芸術祭。2018年は北海道を襲った台風と大地震の影響により開催中止となったが、2019年は倒木や作品破損という状況を乗り越え、芸術祭を開催。2020年度はさらにアートと接点の少ないエリアに拡大し、地域住民と共に新しい角度から地域資源に光を当てていく。この芸術祭を通じて、「いかに幸せに生きるか」を念頭に多くの人々が共生できる環境を目指している。

Website : <https://tobiu.com/>



10. みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2020

学校法人東北芸術工科大学

代表者名：根岸 吉太郎

東北芸術工科大学が主催し山形市で2年に1回開催する、現代アートのフェスティバル。第4回となる山形ビエンナーレ 2020のテーマは「山のかたち、命のかたち」。現役の医師、稲葉俊郎氏を芸術監督に迎え、心身のバランスを失いかけている現代人が、体・心・命・人生・自然などのすべてに含まれる部分と部分の相互作用によって保たれる「バランス=全体性」を取り戻すことができる「理想的な未来の養生所」の創出を目指している。

Website : <https://biennale.tuad.ac.jp/>



11. 房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020

いちはらアート×ミックス実行委員会

代表者名：小出 譲治

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020」は、市原市の歴史・文化・自然・人の暮らし・食・スポーツなど、地域の持つ様々な資源を現代アートと融合し、里山に活力を漲らせ、より魅力的な「いちはら」を再発見する新しい形の芸術祭。人口減少・少子高齢化による地域活力の低下という課題に対して、国内外の誘客促進などを通じて活性化を図り、地域に根差した持続可能な事業へと目指していく。

Website : <https://ichihara-artmix.jp/>



12. さどの島銀河芸術祭プロジェクト 2020

さどの島銀河芸術祭実行委員会

代表者名：吉田 盛之

佐渡島の自然や歴史、点在する民話や伝承を掘り起こし、島内外からの刺激とともに新しい創造空間をつくり出し、「銀河」のようなきらめきや美的価値観を創造していくことを目的として芸術祭を開催。また、プロジェクトを通して創造的で活力ある地域づくりを目指す。

Website : <https://sado-art.com/ja/>



13. Cliff Edge Project 躍動する山河

Cliff Edge Project

代表者名：住 康平

伊豆半島の地質遺産の再発見、自然災害を後世に伝承することを目的に活動しているアートプロジェクト「クリフエッジプロジェクト」。今回の舞台は、伊豆半島の中央部中伊豆地域。縄文時代の中伊豆・皮子平の噴火から62年前の狩野川台風まで、伊豆半島を襲った災害とそれと向き合ってきた人々の思いをテーマにした展覧会を地域の人々と協働してつくり、災害史をアップデートしていく。

Website : <https://cliff-edge.org/>



14. UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 2020

特定非営利活動法人クロスメディアしまだ

代表者名：大石 歩真

「無人」と呼ばれるエリアにおけるアートを手法とした地域再生に取り組んでいるプロジェクト。地域を掘り起こし、アーティストが作品を表現し、「無人駅の芸術祭」を開催。集落の豊かな暮らし、文化、食などを表現し、発信していく。

Website : <http://unmanned.jp/>



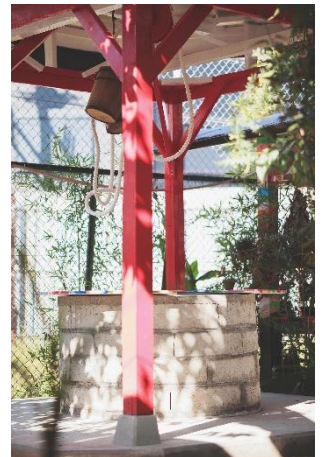
15. 釜ヶ崎芸術大学・大学院 2020

特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

代表者名：上田 假奈代

釜ヶ崎というまちを大学にみたと、「学び合いたい人がいれば、そこが大学」をキャッチフレーズに、2012年から続く大学。高齢化によって日雇い労働者のまち寄せ場が消え、人生の記憶と記録を表現する場として立ち上げている。2020年は、「芸術は生きる技術」という原点に戻り、釜ヶ崎地域で生きのびてきた人々から「生きのびる知恵」を学び、次世代に伝えていく活動や講座を開催予定。

Website : <http://cocoroom.org/>



16. 家の中の芸術～誰かにとってだけ意味をもつ「ライフ・スペシフィック」な表現の調査と展示

社会福祉法人 創樹会 鞆の津ミュージアム

代表者名：西山 堅太郎

福山市鞆の浦地区にある築150年の蔵を再生し、2012年に開館。障害の有無や有名無名にかかわらず、作者の生にねざした独自の創作的表現や「アウトサイダー・アート」の展示を中心とした美術館活動を展開している。2020年度は、人々が暮らしの中で大切にしていたり、なぜか捨てられず家の片隅で保管していたりするような私的にのみ意味や価値があるものを調査・取材し、それらを紹介する展覧会を開催。様々な「普通」の顕在化を試みる。

Website : <https://abtm.jp/>

